

平成 23 年度 2次評価（基本施策評価）シート

基本施策名	35	文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	評価責任者 (基本施策主管課長)	企画課長 藤山 善之
-------	----	-----------------------	---------------------	---------------

基本施策の現状分析及び意図

基本施策の体系	基本目標	意欲
	政 策	生涯を通じて生きがいを持てるまちづくり
① 市民意識調査結果	<p>②左記結果に対する現状分析・市民との協議結果</p> <p>市民意識調査では、基本施策における生活課題として「豊かな文化・芸術に触れることができる」に対する満足度（そう思う・どちらかといえばそう思う）は33.1%で全体の平均より若干上回っているものの、昨年度から5.5ポイントのマイナスとなっており、不満足度（どちらかといえばそう思わない・そう思わない）は63.6%で昨年度から5.9ポイント上昇している。 また、基本施策「文化・芸術により、豊かな感性と創造力を育む」に対する必要度は79.1%で平均を下回っている結果となっている。</p>	
③ 基本施策の現状と課題	<p>①文化芸術活動におけるつくり手と受け手をつなぐ人材が不足していることからそれらの人材育成が必要である。 ②文化芸術の活動の場の提供と支援が必要である。 ③市民各層における文化芸術意識の高揚と文化振興施策の充実が必要である。 ④市民が気軽に利用できる文化活動や歴史文化の拠点となる施設整備が必要である。</p>	
④ 基本施策の意図、今後の展望	<p>芸術文化は、活気と個性あふれるまちづくりを構築するうえで大きな役割を果たすものであることから、市民一人ひとりが気軽に文化芸術に触れられる場や機会をつくり、文化芸術の担い手となる人材の育成や更なる意識の高揚と豊かな感性を育むことで文化の裾野を拡大し、地域の歴史・文化を活かした文化芸術の振興を目指すものとする。</p> <p>①俳句のくにづくり拠点施設整備（新芭蕉翁記念館） ②松尾芭蕉翁などの先賢顕彰事業 ③市民の自主的な芸術文化活動の支援と活動の成果を発表する場の提供 ④市民が気軽に参加できる文化事業の推進と文化活動施設の運営</p>	

⑤基本施策指標の検討・設定

現況の課題、意図、今後の展望のキーワード		考えられる基本施策指標候補		優先順位
俳句のくにづくり拠点施設整備（新芭蕉翁記念館）		新たな文化創造拠点施設の整備（事業の進捗率）		1
俳句の普及		芭蕉翁顕彰（俳句投句数）		2
市民美術展覧会・市民文化祭への参加		文化芸術を発表する場（出展件数・参加団体数）		3
文化芸術活動の普及		文化事業の継続的な開催（文化会館使用回数）		4

基本施策指標名	単 位	過年度実績		評価年度 目標値		ベンチマーク	指標の説明	
		H21	H22	H23	H25			H27
1 新芭蕉翁記念館整備事業の進捗率	目 標	%	—	0.2	0.2	20	100	事業の進捗率
	実 績	%	—	0.2				
	達成率	%	#VALUE!	100.0				
2 芭蕉翁顕彰俳句投句数（一般）	目 標	句	15000	19000	11000	11000	11862	芭蕉翁顕彰での投句数
	実 績	句	10784	9910				
	達成率	%	71.9	52.2				
3 市民美術展覧会出展件数	目 標	件	180	218	170	170	173	市民美術展覧会出展数
	実 績	件	153	148				
	達成率	%	85.0	67.9				
4 市民文化祭参加者数	目 標	団体	100	112	100	100	100	年間市民文化祭参加者数
	実 績	団体	91	93				
	達成率	%	91.0	83.0				

⑥基本施策構成事務事業の評価

担当課	I D	事業名	改善余地の有無	事業費（人件費込、単位：千円）			優先順位
				H22 決算額	H23 予算額	H24 所要額	
1 企画総務部企画課	91-1	文化振興一般経費（だんじり・鬼行列運営助成金）	無	20,471	9,864	9,464	
2 企画総務部企画課	91-2	文化振興一般経費（市民管弦楽団運営補助事業）	無	780	1,020	1,020	
3 企画総務部企画課	92	美術展覧会運営経費（市民美術展覧会）	有	3,125	3,060	3,560	4
4 企画総務部企画課	93	文化祭開催経費	有	3,412	2,940	2,940	5
5 伊賀支所 振興課	94	先賢顕彰費	無	302	312	312	
6 企画総務部企画課	100-1	俳句のくにづくり拠点施設建設事業	無	3,478	3,654	2,795	1
7 企画総務部企画課	100-2	俳句のくにづくり拠点施設建設事業	無	5,210	2,160	48,860	
8 企画総務部企画課	101	芭蕉祭執行等経費	有	13,396	13,889	13,890	2
9 企画総務部企画課	102	しぐれ忌執行等経費	無	315	1,020	1,020	3
10 企画総務部企画課	104	俳句啓発推進経費	無	2,915	781	2,941	
（以下 続紙）							
事業費 小計				53,404	38,700	86,802	

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な事業

事業名	事業主体	事業内容等

⑧ 基本施策の現状分析に基づく改革案の説明

評価視点	評価コメント
1 基本施策指標の分析	文化芸術の人材育成が進まないことから活動年齢が高齢化していることから、一定の数値は確保できるが目標達成数値の伸びは見込めない状況である。これを増やしていくには、子ども世代から文化芸術に触れることができる文化施策の充実と展開が必要である。
2 事業構成の適当性（手段として最適か？）	文化芸術の振興には、社会の成熟化・多様化を背景とした活気と個性があふれるまちづくりのためにも市民一人ひとりの意識の高揚のため一定の行政支援は欠かせないと思われる。しかし、文化芸術の継承面では高齢化による不安が大きく、新たな手法を取り入れた事務事業の検討が必要であると考ええる。
3 役割分担の妥当性	法人や団体への委託金や補助金による事業が主である。委託や補助していても、これまでの慣例により行政が中心となっている事業もあることから、団体等が市民の自発的で自主的な文化活動と役割分担の中での行政支援であることの認識が必要と考えられる。
4 総合評価（今後の展開、事業の見直し等）	幅広い年齢層の市民が、多くの文化芸術に触れることができる環境づくりと、市民一人ひとりの文化芸術に対する意識の高揚、更に伊賀市という文化歴史に恵まれた地域性を活かした文化力の向上を目指し、事務事業の運営の見直しを行うとともに、より充実した施策としたい。また、文化振興事業にかかると費用対効果的には評価は表しにくいがい、財政的にも事業の役割分担のなかで効率よく事業の展開を図ってきたい。